

〈ケア〉を考える会 (第174回)

■日時：2024年4月7日(日) 13:30~15:00

■会場／参加方法 ※ 会場参加は申し込みが必要です

- ① 会場：「よりあい場あ (BAR) ねむの木」(倉敷市真備町箭田 5188/林道也宅)
- ② オンライン (Zoom) ……会場より発信します

■内容：読書対話……本を読んで対話します

『聞くこと、話すこと。』

人が本当のことを口にするとき』

最初~61頁 (尹雄大(ユン・ウンデ) 著 大和書房 2023年5月刊)

■懇親会：15:30~17:30……食べながら飲みながら語り合います(持ち込み歓迎)

※ 懇親会参加者は飲み物をご持参ください

■参加：どなたでも参加できます。初参加歓迎。参加費無料(懇親会参加者は1,000円)

■申込/問合せ：林道也まで ⇒ michi-care@outlook.jp 090-5366-1497



アズマイチゲ

『聞くこと、話すこと。』(本書から抜粋)

▼▼はじめに ▼「聞くといえば「共感する」ことであり、話すとは「情報の正確な伝達」なのだ、なぜかコミュニケーション能力をそういうものだと思っている。(….) だけど、人と人が出会い、語られたことに耳を傾け、思いを口にするには、共感と伝達といったことに狭められてしまうことだろうか。(2頁) ▼私たちが目にするコミュニケーションは情報の伝達を目的にしたやり取りか警告、指示、命令がほとんどだ。それが多くの人には「息苦しさ」に感じられているのだと思う。だから、ちゃんと息をして、リラックスして話し、聞く。それがもたらす喜びについて書いていくつもりだ。喜びはノウハウからもたらされはしないと知っておくのは、けっこう大事だと思っている。(4頁)

▼▼身体とその人の声——濱口竜介さんとの出会いで気づいたこと ▼濱口竜介さん(映画監督)に(….)聞くことと演じるこの関わりについて、ぜひ尋ねてみたいと思った。(24頁) ▼互いが「あなたを知りたい」と思い、だからこそ相手に率直に尋ねるとき、そこに信頼が生まれる。(….)「あなたを知りたい」というあまりの率直さに触れたとき、身にまとった鎧を脱いでもいいのではないかと思いはじめ。(26-27頁) ▼自分から相手ではなく、相手から相手を観る(….)「相手から相手を観る」とは、その人の話をその人の話として聞くことでもある。私の予見を通してではなくして。(34頁) 人は相手の話を「その人の話」としてではなく、「自分の話」として聞きがちだ。(43頁) ▼大事なのは、ただ話すことをただ聞くことだ。(….) 私が相手の話を聞いて善悪や正誤を決めるのではない。コントロールするのでもない。(44頁) ▼私にできるのは、傲慢にも相手の話を要約することでもなければ解釈でもない。(….)「完全に聞く」とは相手を完璧に理解することではない。わかろうと試みる状態のことだ。(45頁)



■おたがいの言葉を手がかりに考える時間をもつこと、確かめながらゆっくりと考える時間を共にし、分け合う。「考え」でなく、「考え方」をお互い共有してゆく。

対話には結論はありません。プロセスをゆたかにできなくては。(長田弘『なつかしい時間』191頁)

■わたしたちはじぶんのいのちが他のいのちとの交換のなかにあることを知らされる。

(鷲田清一『老いの空白』227頁)

〈ケア〉を考える会 Zoom ミーティング

▼ミーティングID ⇒ 823 8391 6541

▼パスコード ⇒ care117



■ 5月例会：5月12日(日)13:30~ 京都市下京区(五條)の会場で開催(Zoom オンライン有)

■ 6月例会：6月2日(日)13:30~ 倉敷市真備町の会場で開催(Zoom オンライン有)